

2019年7月8日

写真掲載・文責：佐野馨

協議：佐藤京子、細木由里子

はじめに

2019年6月22日から23日の夜20時から22時の間、沖縄県の公益財団法人沖縄県平和祈念財団が平和祈念公園内で5本の「平和の光の柱」を天空に照射して、より遠く・より広く・より多くの県民から見るができるようにすることで慰霊と平和を発信されました。

2019年6月27日
光の柱プロジェクト構想



研究所 HP 小林泰久さん作成

人間自然科学研究所においても、これまで様々な活動を通して平和・環境・健康をテーマに発信してこれ来ました。当研究所の小松理事長が沖縄で開催した「平和の光の柱」取材した読売新聞の記事を目にされたのをきっかけに、平和祈念財団より詳細を聞かせていただき、平和・環境・健康をテーマに「平和と火と水と健康寿命の聖地」の構想を発表され、八雲立つ日本・出雲から米国・露国・中国・韓国・北朝鮮・日本の方角に向い6本の光の柱を天空に照射することにより、社是・経営理念・

平和と火と水と健康寿命の聖地構想の実現を祈願すると同時に、多くの方々に見ていただき当研究所の活動に積極的な参加と提案をいただく機会として「光の柱プロジェクト構想」が行われます。

これらの活動をさらに永続的に発展させるために、キックオフの事前準備として、6月29日奥出雲石照庭園(雲南市木次町平田)を主会場にして、今までに当研究所の活動にご参加・ご支援されていた女性メンバーを中心に会議が開催されました。平和・環境・健康のキーワードとなる日本語の語源は若しかして出雲弁かもしれないと我田引水、松江出雲弁保存会会長小林忠夫様に同行して、出雲弁に堪能な佐野も会議に参加させていただきましたので、茲に会議参加の概要を報告します。

スケジュール 6月29日(土)

- ・ 9:00 小松電機産業 本社に集合 2台に分乗して出発(岩崎さんご手配)
白レクサス(小松社長、杉本真知子、橋澤加世)
ヴェルファイア(佐野馨、佐藤京子、柳澤時子、小林忠夫、)新規事業ポスターパネル搭載
- ・ 10:00 石照庭園 到着
現地にて合流、 米田ときこ、八幡垣志保、高瀬寿子、細木由里子
- ・ 10:30 石照庭園 園内見学
(株)堀江(石照庭園) 代表 堀江洋伸氏ご案内、堀江研次氏随行)
- ・ 11:30 会議開会、会議出席者メッセージ(11名)、電話参加者メッセージ(5名)
「ときめきクラブ」キックオフの事前準備会ミーティング
- ・ 14:00 会議終了
- ・ 14:30 若槻屋 訪問(雲南市吉田町)
- ・ 15:00 奥出雲前綿屋 鐵泉堂 訪問、 現地解散
- ・ 16:00 小松電機産業 本社に帰社、解散

会議ルート



6/29 参加者（会議出席参加者 11名、電話参加者 5名）（岩崎美子さん、上田恵美子さんまとめ）

	氏名	肩書き
1	小松社長	小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所代表取締役
2	米田ときこ	松江市議会議員・保健師・看護師
3	佐野馨	特許アドバイザー
4	小林忠夫	松江・出雲弁保存会会長
5	杉本真知子	
6	佐藤京子	日本舞踊花柳流師範花柳萌淡
7	柳澤時子	キルト作家・2017年日本キルト大賞受賞
8	八幡垣志保	出雲キルト美術館代表取締役
9	高瀬寿子	まるカフェ(情報発信カフェ)店主ライフコースカウンセラー(天占易学)ファイナンシャルプランナー
10	細木由里子	オフィス由
11	橋澤加世	林・水田法律事務所 弁護士
電話参加		
11	倉重智臣	監査法人トーマツマネージャー・米国デラウェア州公認会計士
12	浜菜みやこ	女優・ラジオDJ・MC
13	佐藤徹郎	白玄舎・編集者
14	船橋邦子	男女共同参画と災害復興ネットワークJWNDRR運営委員 NPO法人アジア女性資料センター理事 北京JAC(世界女性会議ロビイングネットワーク)代表 大阪女子大学女性学研究センター教授、 和光大学教授(女性学)を歴任
15	寺岡多佳	日本画家、龍の絵作者

(順不同 敬称略)

ご協力

(株)堀江（石照庭園）

代表 堀江洋伸氏

堀江研次氏

[illegible]

神やどる奥出雲、理想の楽園 奥出雲・石照庭園

(石照庭園設計・伊藤 邦衛)

日本人の自然観や美意識によれば、日本庭園とは人々の理想の楽園、つまり物語風にいえば桃源郷であるといえるでしょう。

こうした日本人の好みは、絵画における山水画や景観地の絵を綴った古地図・文学などにも見られます。

1 万葉のシタナギ

庭園の一角を占めているシタナギを中心とした庭園の花々、春には花の宴が楽しめます。

2 江戸時代のたたら製鉄に用いた砂利を採取する跡(かんたけ)

シタナギの庭園を囲む砂利を採取する跡が、今も残っています。ここは江戸時代、山木を運ぶための土留まり、砂利を採取した跡(かんたけ)としてできて広場なのです。

3 石山寺(建造物30分)

日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。

4 土橋

10月下旬から11月は日や移り変わる紅葉が見えます。

5 石照寺・聖観音菩薩像

聖観音菩薩、薬師如来、弘法大師が、先代の坐像とともに祀れる人々を見守ります。聖は名工村兼清庵の外、御使の一の座。

6 第一の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第一の滝が流れています。

7 第二の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第二の滝が流れています。

8 石山寺(建造物30分)

日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。

9 土橋

10月下旬から11月は日や移り変わる紅葉が見えます。

10 石照寺・聖観音菩薩像

聖観音菩薩、薬師如来、弘法大師が、先代の坐像とともに祀れる人々を見守ります。聖は名工村兼清庵の外、御使の一の座。

11 第一の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第一の滝が流れています。

12 第二の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第二の滝が流れています。

3 万葉のシタナギ

庭園の一角を占めているシタナギを中心とした庭園の花々、春には花の宴が楽しめます。

4 江戸時代のたたら製鉄に用いた砂利を採取する跡(かんたけ)

シタナギの庭園を囲む砂利を採取する跡が、今も残っています。ここは江戸時代、山木を運ぶための土留まり、砂利を採取した跡(かんたけ)としてできて広場なのです。

5 石山寺(建造物30分)

日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。

6 土橋

10月下旬から11月は日や移り変わる紅葉が見えます。

7 石照寺・聖観音菩薩像

聖観音菩薩、薬師如来、弘法大師が、先代の坐像とともに祀れる人々を見守ります。聖は名工村兼清庵の外、御使の一の座。

8 第一の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第一の滝が流れています。

9 第二の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第二の滝が流れています。

10 石山寺(建造物30分)

日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。日本最古の石山寺の歴史的な建造物で成立します。

11 土橋

10月下旬から11月は日や移り変わる紅葉が見えます。

12 石照寺・聖観音菩薩像

聖観音菩薩、薬師如来、弘法大師が、先代の坐像とともに祀れる人々を見守ります。聖は名工村兼清庵の外、御使の一の座。

13 第一の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第一の滝が流れています。

14 第二の滝

山に囲まれた静かな庭園に、第二の滝が流れています。

杉本 細木 橋澤 高瀬 佐藤 八幡垣 柳澤 小林

石照庭園 園内見学

堀江社長のご案内



八幡垣 小林 佐野 橋澤 細木 (写真提供 堀江研次氏)
堀江社長 佐藤 高瀬 米田 小松社長 柳澤 杉本



新規事業のポスターについて 小松社長の説明



「ひらめきクラブ」会議スタート 開催（別棟 近江屋にて）



小松社長の前に電話メッセージ用スピーカーセット 柳澤さんの大賞作品展示（写真提供 堀江研次氏）



会議場 全景

（写真提供 堀江研次氏）

電話参加者のメッセージ 拝聴



「ひらめきクラブ」→変じて→「ときめきクラブ」 会議出席者の記念写真



細木 杉本 柳澤 堀江社長 佐藤 橋澤 八幡垣
高瀬 小林 小松社長 佐野 米田 (写真提供 堀江研次氏)

吉田町の町並み 坂道の向こうに田部家土蔵群、鐵泉堂などあり



北前船 金石港の看板

石照庭園会議後に吉田町へ移動
吉田町の若槻屋へ訪問途中に
北前船 金石港(かないわこう)の看板
たたらの鋼や銑鉄が、加賀百万石
金沢市の金石港へ出荷された由

ツーリズムの宿 若槻屋 訪問 (若槻屋さんは小松社長が資本参加されています。)

(松江道「雲南吉田 I C (道の駅たたらば壺番地)」より車で約5分の場所)

「ツーリズムの宿 若槻屋」は築150年の庄屋屋敷を改築し誕生した古民家です。

鉄山師・田部家の土蔵群がある島根県雲南市吉田町の中心部の町中にあります。

昭和レトロが残る町並みを眺めながら、シンプルで落ち着きもあり癒される空間です。

1階の「山里かふえはしまん」では食事が、2階の「ツーリズムの宿若槻屋」では宿泊ができます。



若槻屋様のご案内にて 一階、二階を見学



若槻屋さんの前にて 記念写真



杉本 高瀬 小林 八幡垣 米田 柳澤 細木 小松社長 佐藤



小松社長 ありがとうございました。

若槻屋 全景

奥出雲前綿屋（まえわたや）鐵泉堂（てっせんどう） 見学

吉田町の田部家土蔵群前に、「奥出雲前綿屋鐵泉堂」が平成 30 年 10 月 23 日にオープンしました!!

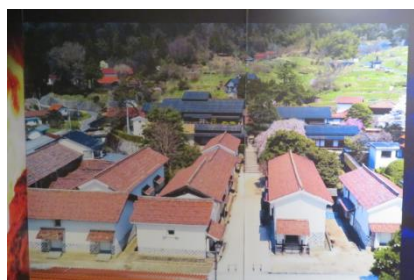
松江藩の有力鉄師「田部家」の歴史のパネルの展示や、今年 5 月に田部家が約 100 年ぶりに復活させた”たたら製鉄”の操業のビデオやその時造り出された「鋤（ケラ）」もご覧いただけます。

また、貴重な玉鋼でつくられたゴルフパターや、包丁、靴べらなども展示販売されています。

「奥出雲前綿屋鐵泉堂」の概要



今回の会議場所、視察場所の概略



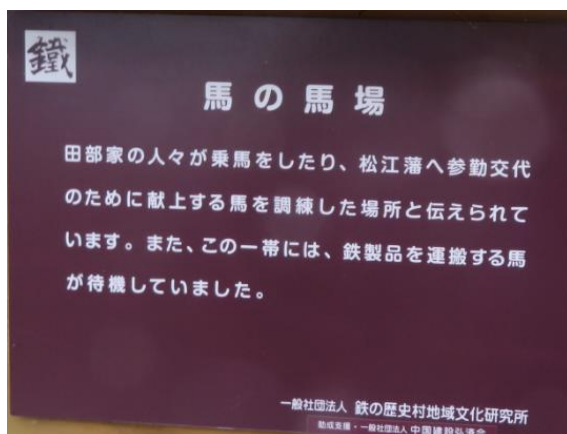
司馬遼太郎『街道をゆく』『砂鉄のみち』昭和 50 年（1975）1 月取材
吉田村に着いた司馬氏は、町の中心部にある 23 代田部長右衛門氏の
屋敷を訪ねます。かつて「日本一の山林王」と称され、吉田村自体が
「田部家の城下村」でしたが、屋敷には村を威圧するような豪壮さが
なく「どちらかといえば質実な造り」と司馬氏は驚いています。この
屋敷は幕末、村中を灰にした火事ののちに建てられたもので、火事の
火元が田部家だったことから、ことさら簡素に造られたそうです。元の屋敷は、200 年ほど前に火事と
なり、向かい側からこちらに移ったそうです。町の人に迷惑をかけたとして、質素な家にされたそうです



鐵泉堂の係の方が、ゴルフパター「TESSEN」(商標登録)を説明 小松社長プレイ中



鐵泉堂の見学を終えて・・・





石照庭園 会議で 小松社長より紹介があり、全員で情報共有をさせていただきました。

浜菜みやこさん応援メッセージ 「八雲立つ日本 出雲から陽が昇る」

松江の地から「平和の光の柱」を天空に照射することは、とても意義があると思います。

出雲から和議で進化 対立から共生の文化へ 共に歩み世界平和を実現する

この素晴らしいプロジェクトを応援します。 恒久の平和を願って。

ラジオパーソナリティー：浜菜みやこ(ハマミー)

本プロジェクトへのご提案や応援メッセージを募集しています。

以下のボタンから必要事項を記入のうえ送信してください。

応援メッセージ
送信フォーム

お待ちしております。

人間自然科学研究所

当サイトおよび弊社製品に関するお問い合わせやご意見、ご要望は下記フォームをご利用ください。
※は入力必須項目です必ずご入力をお願いします。
文字化けの原因になりますので、半角カナは使用しないでください。

お問い合わせ内容の種類(複数選択可能)

☐ サイトに関する問い合わせ ☐ その他

お名前※
フリガナ 全角カタカナ
E-mail※ 半角英数字
電話番号 半角英数字 0852-32-3636
郵便番号 半角英数字 090-0046
会社名/団体名
所属
住所1※ 北海道
住所2※ 090 松江市
住所3※ 090 乃木福島町735-188

件名
内容※

浜菜さん 電話メッセージ概要

前回 小松電機産業訪問、会社で講演、
出雲路、松江市、鳥取中国庭園のご案内皆様に
感謝、ありがとうございました。

石照庭園さん、素晴らしいですねと石照庭園の
HPをみながら堀江研次さんにインタビュー。
地図は子供に分かりやすく、子供が山を走ると
良いな、歩くと良いなと思って作ったと説明。
今度、是非石照庭園を見てから、全国発信した
いとのこと。小林泰久さんとホームページの
トピックスを検討。アップしています。光のプロ
ジェクト、良かったら後でみてください。と
のことで、左記小松社長より紹介。

追って、浜菜さんより電話があり、斐川の出雲
キルト美術館を案内いただき感謝。キルト美術
館の空間美に感激した。ラジオで全国発信した
ら行ってみたいとのメッセージが沢山寄せら
れています。との報告。八幡垣さん深謝。

【コメント】小松社長

石照庭園での会議開催「ひらめきクラブ」→変じて→「ときめきクラブ」キックオフの事前準備会に際し、会議出席参加者および電話参加者の方々に御礼を申し上げたい。ご参加をありがとうございました。今回の会議開催は、この会をスタートキックオフするには25年の歳月の結果があるも、今までの流れとは異なった初めての試みが多かった。出席者の女性メンバーの方も社外の人が多く、また参加者の招集にも会議日程近くになってから緊急で案内するパターンとなって、正直な気持ち、参加者の出迎え、会場への案内、天候の具合、石照庭園での会議がうまく開催できるか否か非常に心配していた。初の電話によるスピーカーメッセージ方式では、映像の見えない電話参加者からの案内メッセージをいただくなどの進行に、電話応答やスピーカーの音声操作などもワンマンショー的に行っていたので、内心では非常にドキドキしながら進めていた。しかしながら会議の中での「ひらめき」を「きらめき」にしながら司会者として進行をすすめることを、石照庭園様はじめ会議出席者並びに電話参加者の皆様のおかげでなんとか無事に終了できてほっとしているのが実感である。会議の途中で仮称「ひらめきクラブ」を「ときめきクラブ」に変えたらと言う提案が杉本さんからなされて盛り上がるなど結果オーライで大変に良かった。天候にも恵まれて、本会議の後で鐵の歴史を彩る吉田村にも移動する案内ができて参加者の皆様と歴史認識を共有できた点も良かった。本年は事前準備会、菖蒲の時期が過ぎていたが 来年は菖蒲の一番良い時に開催したい。来年にむけて更なるご協力をお願いしたい。

7月5日～8日まで中国 北京にでかけることにしています。「第一回日中コールド・チェーン物流発展国際フォーラム」(2019)に参加、「一隅を守り千里を照らす 小松社長の経営の道」や「中国名言録」再版について打ち合わせの予定です。人間自然科学研究所 HP の「活動のあゆみ」に掲載しています動画「活动历史纪录 1973-2019 年 (活動のあゆみ中国語字幕 17 分) 2019/07/07 にアップロード」(日本語版「小松電機産業 人間自然科学研究所 活動のあゆみ 1973-2019 年 (17min)」)をいよいよ展開する時期にきています。この動画は、このたび映像や音声も更に鮮明に新編集して、1973 年 2 月小松産業創立の紹介から始まって、「八雲立つ日本 出雲から陽が昇る 昭和・平成から令和へ 出雲から和議で進化対立から共生の文化」の宍道湖袖師地蔵前イベントなど、最近の活動までを取り入れて紹介しています。「ときめき クラブ」キックオフの活動を更に前進するにあたり、この活動のあゆみの動画は必見ものですので是非ともご覧いただきたい。

【感想】株式会社堀江 石照庭園 堀江研次 氏

ご来園いただきありがとうございました。

小松社長より、人類、人、人間の定義、もしくは、「お話をする際に相互に定義の確認」をして言葉をつかわなければならない、とアドバイスをいただいたことがございます。安定的に種の存続が図れる森林の樹上での生活から離れ、森から歩き出した二足歩行体が、人類の起源だそうです。

森から離れ、水や食料を得るために種同士の協力が死活問題となり、道具を用いることによって大脳新皮質が急速に発達した、人類。やがて農耕と狩猟を組み合わせることで、安定的な食料確保と自然観察、そしてコミュニティーと縄張りという概念が生まれます。そこに、経営、労働の分業の萌芽が生まれます。労働はギリシア・ローマの時代には戦争によって得た奴隷によって生産活動が賄われ、その次代の「市民」は、納税、戦争に行く義務(権利)とともに、農地から離れ都市生活を始めた。

庭園とは何か？戦国の世に築庭の概念は薄れ、安土桃山時代以降は、築城で培われた高い土木技術が造園に生かされて行きます。江戸期には一国一城令で軍事施設の建築を厳しく制限する一方、幕府は全国の大名に造園を勧め、また自らも日光東照宮造営に代表されるように戦費を築庭に回すことによって平和の構築を視覚化しました。都市は分業によって成立します。今、地方都市であっても朝、昼、晩と繰り返す食事をいつ、実際に自らが土を耕し、生産しているのでしょうか。移動する道路も、車も、自分だけで作ったものは何一つありません。衣食住を考えれば、まさに国際化、細分化された分業でなければ一日も生存できない。これは、地方都市のみならず、現代の農村でも、国際分業なしには成り立たない。

AI の登場によって、労働が担ってきた分野を急速に AI が担うようになってきています。その時代における人類は、やはり種として存在の再定義が始まります。庭園とはそうした細分化、分業化が進んだ世界において、可視的に自然を造る、比喩的にいえば農村も含め広く「都市化」した社会にあって、意図的に「内」と「外」を造ることによって、異空間に入る装置といえるでしょう。

人間、人、人類とさかのぼって起源を探る「こともできる」装置ではないかと感じています。

人によっては、親、祖父母、祖先。。。という遡上。もしくは機械、道具、手足、体、脳。。。という遡上にも例えられるのでしょうか。小松社長はじめ出雲（県東部）、石見、鳥取の各地から来ていただいたお客様が、水の音、緑のざわめき、木の香りを見ていただいて、素晴らしい会の始まり、の始まりをお感じになった会場でしたら、このような喜びはございません。またそれは国際時代の財産であり、歴史です。

そんな始まりの会になされるために、私共の役割を果たしたいと心より感じています。

ありがとうございました。

【感想】 電話参加 白玄舎・編集者 佐藤徹郎 様

知財の駅馬車 佐野馨様 石照庭園で開かれた「光のプロジェクト構想」準備会議のご報告拝受。

キルトの名作「牡丹」を前に、皆様が心開いて語り合う様子が伝わってきます。

作者・柳沢時子さんが、お名前の通り「時」を駆け抜けて創作なさった「牡丹」が、参加された皆様の心をとらえて離さなかったのでしょうか。「ひらめきクラブ」転じて「ときめきクラブ」とのこと。まさしく皆様の「ときめき談議」が聞こえてきます。出雲弁の飛び交う、笑いあり、思索の時ありの、実に有意な時間だったと思います。内容の濃い、素晴らしいキックオフ前ミーティングとなりました。

ちなみに私の妻は仁万の出身で、今も郷里の友等と仁万弁で笑い会っています。

お送りくださった写真にも、皆様の「ときめきぶり」が随所に感じられ、見ている私も嬉しくなりました。

「ときめき」の皆様に拍手を贈ります。吉田村、田部長右エ門さん、そして「たたら」のことも、感慨深く読みました。「光の柱プロジェクト」は、平和・環境・健康の三テーマに向けての一大構想となりました。皆様の深い思索と行動、それを支える情熱（エネルギー）に乾杯！

佐野さんには昨年 9 月にお会いしました。またお会いしましょう。佐藤徹郎

【感想】 電話参加

監査法人デロイトトーマツマネージャー・米国デラウェア州公認会計士 倉重智臣 様

お世話になります、トーマツ（広島）の倉重でございます。

この度は貴重なご報告を賜りまして、誠にありがとうございました。電撃的な米朝首脳会談が歴史に刻まれるこの頃に、まさに小松社長の長年も思い、構想が結実しつつあるものと存じます。小松社長のお考

えに触れ、改めて小手先の情報収集（テクニックの習得）ではないもの、国内外の古典、歴史、哲学等の教養を深く身に着けるべく、勉強をし直している次第です。

小松社長にご面談等でお時間を頂戴するに際しては、誠に勝手ながら、真剣白刃取りのような、真摯な姿勢で臨ませて頂きます。小手先ではない、本質的なものをより極めて参りますので、引き続きご指導のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

【所感】電話参加 女優・ラジオ DJ-MC 浜菜みやこ 様

この度は「ときめき クラブ」キックオフ事前準備会ミーティングの開催おめでとうございます。

電話での参加でしたが、少しの時間でも皆様と共有出来たこと、嬉しく思います。またこの様に、報告書を送って頂き、改めてどの様な雰囲気の中で会が催されたのかを感じる事ができ、感謝申し上げます。私は島根の地理がまだよくわからないので、会議ルート地図を、見学ポイントと共に送って頂き、とてもありがたかったです。松江と石照庭園(雲南市)の位置関係、距離感などがよくわかりました。 まだ一度しか伺っていない島根県。石照庭園の他にも、若槻屋や奥出雲前綿屋 鐵泉堂など、まだまだ見所がたくさんある事も伝わってきます。笑顔で写っていらっしゃる参加者皆様の写真。そして、石照庭園の自然豊かな中に意匠を凝らしている庭、など、添付された写真を見ているだけで「ときめき」ます。島根発の「ときめき」を、私の様な島根に居ない全国の人たちに届けられるといいですね。これからが楽しみです。この度は、素敵な「ときめき」をありがとうございます。次回は現地で「ときめきクラブ」に参加します！

【感想】米子東町法律事務所 弁護士 橋澤加世 様

石照庭園の会議の二日前に、某パーティーで小松社長に初めてお会いし、「土曜日は空いていますか？素敵な女性が集まります。菖蒲を見に行きませんか？」とお誘いいただいたのが良縁となるきっかけで、この度、ときめきの会に参加させていただきました。当日、小松社長運転のお車に同乗させていただき、そこで初めて、このプロジェクトが、オノ・ヨーコさんがジョンに捧げた光のイマジン・ピース・タワーや、沖縄の光の塔から着想されたもので、出雲からも6本の光の柱を通じて、平和のメッセージを発信しようとするものだと言った次第です。全くの門外漢で恐縮でしたが、その発想については大変に感銘を受けました。

10年ほど前に、オノ・ヨーコさんの展示を拝見したことがあります。長い梯子を上って天井近くまで行き、天井に書かれた小さな文字を虫眼鏡を使って読むという作品でした。「何が書いてあるんだろう？」と思いながら梯子をのぼり、虫眼鏡を手にとって目を凝らし、たった一言「YES」と書いてあるを見つけました。その「YES」という単語を見た時に、胸の奥に何とも言えない嬉しく温かい気持ちが芽生えたことを、今でも思い出します。「YES」は日本語では言い表すことが難しい言葉です。「はい」という単なる応答にとどまらず、積極的に相手を肯定しようという意思を持っている単語です。「YES」と肯定することから始めれば、どこか心が温かくなり、理解が生まれる、その力をヨーコさんはいつも信じて、平和に向けたメッセージを発信されているのだと思います。これが、小松社長からうかがった、共生、和譲、オープンマインドといった観点につながるものだと、(独自の解釈かもしれませんが…)先日、お話を伺いながら感じておりました。

日本へ帰国し、久しぶりに戻ってきた山陰で、美しいお庭、見事なキルト、古くからの古民家を拝見し、田部家の歴史も勉強するという、盛りだくさんのツアーを満喫し、「ああ日本に帰ってきたんだな～」と

しみじみ感じました。大変楽しく有意義な一日となり、お誘いいただいた小松社長、ご一緒させていただいた皆様に、深く感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

【感想】松江市議会議員 米田ときこ 様

過日には、大変有意義な時間とご馳走をありがとうございました。お声掛け戴いただけでもありがたいことですのに大変お世話になりました。感謝申し上げます。雑感で申し訳ありませんが、送ります。

先日は、様々なエキスパートの皆様とお知り合いになることができ、光栄に存じます。

まだ、何を目指した議論をしていくのか良く理解できていませんが、ご一緒に議論しながら、何かを成し遂げることが出来れば非常に光栄なことだと考えます。

私の出来ることはわずかなことだと思いますが、一端を担うことができるよう勉強して頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

【所感】八幡垣志保 様

令和元年の夏の始まりに、貴重な会に参加させていただきありがとうございました。

日本の美しい四季の移ろいを庭で表現され伝える石照庭園さんを散策させていただきながら日本文化の豊かさをあらためて感じました。ご参加の皆様と一堂にお会いするのは私自身は今回初めてで、またこのような会も初めてとお聞きしました。年齢・職業・出身など共通点が一見ないようでしたが、お一人お一人のお言葉でお話をお聞きし、通じる何かを感じたようでした。

それは人間自然科学研究所を活動を通じて出会い、学ばせていただいているからではないかと思います。若槻屋さんにも約 10 年ぶりに見学させていただき、私の地元である雲南市にも様々な魅力があり広域で点と点を面にしてゆく大事さを感じました。

様々な視点や視野でのお考えや、お話を聞かせていただく貴重な機会をありがとうございました。

【所感】杉本真知子 様

先日は天候にも恵まれ、参加者の認識は様々でありましたが、個々の持つ魅力が垣間見え、楽しいひと時でした。その集まりを佐野様は素知らぬ顔で(・・?)で、「意義のある会」にまとめておられます。感嘆！ひらめき～ときめき～かがやき・・・これから何が起きるかな・・・

【所感】 佐藤京子

松江から尾道線高速で三刀屋インターで降り、314 号を深い山々を縫う流れに沿う川は斐伊川源流であるが、梅雨入りの香しい景色を味わいながら石照庭園に着いた。

お写真にありますキルト大賞 牡丹と嫁が島 床の間には観音様のお軸に一輪の菖蒲が和室の空気を一層清々しく私達、初対面も交えた出逢いを迎えてくださいました。人手間ふた手間に感謝いたします。ありがとうございます。このような機会に参加させていただきありがとうございました。

研究所事業の更なる永続経営理念、共生の文化を産むこの時に、ときめきやひらめきを感じて準備会のご挨拶を小松社長がされました。

ひらめきは、メカニカル。ときめきは、イノベーションに聴こえました。

1 日時間の使い方 心ときめくアプローチに感銘いたしております。

出逢いは新しい物語になり、関心の時を皆さまと共有できて感謝します。今後ともご指導、ご助言を賜れば幸せに存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

【所感】 細木由里子

6月29日（土）に開催されました 石照庭園様における会議に参加させていただきました。創造力をもって整備され、今も進化の最中にある石照庭園様で、堀江社長様・堀江研次様にご案内いただきながらの見学の後、柳澤様の素晴らしいキルト作品が床の間のお軸とマッチしてグレードアップした空間での、美味しい昼食をいただきながら、ご参加の皆様がお持ちになっている背景とお取り組みをお聞きし、今後、構想がひとりひとりのワールド（世界観）で現実化・具現化されていきそうなイメージが沸く、そのような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。ご参加の皆様は女性が多いこともあり、子育て・教育・食育などに問題意識と関心をもって取り組まれているお話も沢山出ました。皆様のお話を伺いながら、各々の立ち位置に於いて、自分の役割を果たしていく、その核にこの構想があり、構想をエンジンとしてそれぞれが自分の世界でわかりやすく伝わる形で具現化していく、というイメージが沸き、自らの役割を再度点検し確認する機会をいただきました。余談ですが、石照庭園へ行く山中の道路で3～4頭のサルを見かけました。帰りには同じ場所で、なんと10頭以上の群れに遭遇しました。また、イノシシが山道を歩いていますし、今や熊が町中にも出現します。私が暮らしていた20年以上前とは、全く変わっている現状を目の当たりにし、高齢化がぐんぐん進み、他者どころではない生活の中で、いかにコミュニティで共生しあう暮らしを作るのかも、大きなテーマであると感じました。

【所感】 佐野 馨

令和元年、空梅雨様相の六月の締めくくりに、奥出雲 石照庭園の会議に参加の機会を賜わりましてありがとうございました。当初には、女性だけの集まりと聞いていましたので静観していましたが、小松社長から松江出雲弁保存会 会長 小林忠夫さんと一緒にご案内を受けて参加させていただきました。小松社長の挨拶で、今回の会議開催は、研究所の緒活動が25年になり、今後は女性の力を中心に展開させていくことも必要。来年には世界から集まってくるような仕組みとするために、本日は事前の準備会を開催したのでよろしくと開会の趣旨をご説明。爾後、会議参加者が、佐野、小林、柳澤、橋澤、米田、杉本、細木、八幡垣、高瀬、佐藤の順に、自己紹介と会議参加への気持ちの表明を図り、各人の立場と情報共有を図られた。そして、小松社長より電話参加者のプロフィールなどをご紹介された後、浜菜さん、寺岡さん、倉重さんの順にスピーカー音声拡大による電話参加メッセージを賜わった。このときには、佐藤さんと船橋さんには電話がつながらなかったが、後ほどに電話をいただいた様子でした。

会議の名称を、当初は小松社長の発案で仮称「ひらめきクラブ」とされていましたが、会議の盛り上がりと共に、杉本さんから「ときめきクラブ」の提案があり、満場一致で「ときめきクラブ」に変更することにされた。

折角の出かけ会議であり、小松社長より、吉田町の若槻屋見学の提案がされて、全員参加となった。石照庭園の自然満喫、研究所新規事業のポスターと柳澤様の大賞作品「牡丹」を展示しての会議、場所を変えての若槻屋の古民家や鐵泉堂など歴史探索、などを通じて、平和・環境・健康をテーマにする研究所活動への情報共有が図れたことは大変に良かった。実践の学びの会議に参加させていただきました感謝いたします。ご参加された皆様の貴重な経験、体験を聴かせていただき大変に参考になりました。

また、参加者名簿のとりまとめ、会場への配車手配など、岩崎美子さん、上田恵美子さんなどにお世話になりました。ありがとうございました。

以上